



ビーガン

東京の近くの教会でビーガン食を提供していると聞き行ってきました。ビーガンとは宗教団体などとは関係なく、個人でビーガン食を食べている人を指し、ビーガン食は肉を食べない野菜中心で健康的な食事の様です。食事以外にも環境に配慮し動物虐待を避けるため皮製品も使わない人もいます。でも、肉を食べないので栄養の偏りに注意が必要かもしれません。

[笠間信也]



軽井沢の四季彩便り 50

『ダンコウバイ』 写真・文 渡辺久義(会員)

浅間山が白雪の中、他の花に魁て、軽井沢に春の香りを届けてくれます。花は蜂蜜のような強烈な甘香を放ち、枝を切ると柑橘系の香気が漂います。この独特の香りが「壇香梅」という名前の由来にもなっています。別名はウコン花。鮮やかな黄色の花がモノクロの森に彩りを添え始めると春が来たとうきウキします。さてと、厳しいシバレが緩み始める早春、冬の出不精で緩んだ体にズク出して、春の香りを味わいに森歩きに行くとしたら。

軽井沢サクラソウ会議

記録&予定 《記録○(1~2月) 予定●(2月~4月)》

2月~4月

- 1月9日(木) こもれびの街講座「植物の観察と名前調べ」
- 1月10日(金) 定例会+ミニ講座「絶滅危惧植物」
- 1月29日(水) 自然保護審議会 RDB策定検討部会
- 2月1日(土) 長野県さぎなフォーラム
- 2月5日(水) 自然保護審議会「対策要綱」改正検討部会
- 2月6日(木) こもれびの街講座「軽井沢で発見された植物」
- 2月7日(金) 定例会+ミニ講座
- 2月21日(金) 13:00~17:00
「信州ネイチャーポジティブアプローチ」長野県教育会館
- 3月13日(木) 13:00~15:30
標本調べ 中央公民館第3会議室
- 3月14日(金) 14:00~16:00
定例会+ミニ講座 中央公民館視聴覚室
- 3月21日(金) 10:00~11:00
手前味噌配布 中央公民館
- 3月27日(木)~31日(月)の1日(未定)
サクラソウ自生地下刈り
- 4月10日(木) 13:30~15:30
標本調べ 中央公民館第3会議室
- 4月11日(金) 9:00~11:30
モニタリング1000里地調査 軽井沢タリアセン駐車場集合
- 4月11日(金) 14:00~16:00
定例会+ミニ講座 中央公民館視聴覚室

CONTENTS

- 1 巻頭言 / 『軽井沢の四季彩便り』50 / 記録&予定
- 2・3 サクラソウ全町調査に参加しませんか
花と昆虫の歴史に思いを馳せる
「100年後の軽井沢へ 植物標本づくり」
クリスマスリース作り
- 4・5・6 ホトケドジョウをどこに逃すか
クイズ
ミニ講座 津田智先生の『絶滅危惧種のお話』
- 8 コラム③ / 事務局から

2025年5月 サクラソウ全町調査に参加しませんか

サクラソウは軽井沢の自然の多様性を示すシンボルです。1993年8月1日、サクラソウは町花として制定され、町民に愛される植物です。軽井沢サクラソウ会議は2000年に発足し、サクラソウを含む多様な軽井沢の自然を楽しむ保全する活動をしています。

希少な自然

サクラソウは長野県の絶滅危惧II類（VU）に指定されており、サクラソウを守ることは豊かな軽井沢の自然を守ることに他なりません。サクラソウの受粉はトラマルハナバチの女王蜂が媒介します。トラマルハナバチは地中の野ネズミの古巣に営



巣するので、周囲の自然環境全体を保つことが重要です。ちなみにサクラソウ会議のロゴマークの花にある小さな白い点はトラマルハナバチが訪れたことを示す爪跡です。サクラソウは生まれ育った自然の中で楽しむことが大切です。サクラソウをむやみに移植するのは慎むべきですし、希少となったサクラソウが盗掘されないように配慮が必要です。

REPORT

2024 9/14

花と昆虫の歴史に思いを馳せる

2024年9月14日（土）13:30～15:00、軽井沢タリアセンにて「野の花さんぽ」が開催された。テーマは「花と受粉：なぜそんな格好をしているの?」。参加者は7名。サクラソウ会議自然観察指導員



写真1

3名。最初の10分間、参加者は自由に季節の花を観察し、興味を引いた花を取り上げ、皆

で鑑賞し楽しんだ。キバナアキギリ、サラシナショウマ、アケボノソウ、シラネセンキュウ、ミズヒキ、セキヤノアキチョウジ、トネアザミ、セイタカトウヒレンなどを観察した。

キバナアキギリでは退化した雄しべに蜂が乗るとテコの原理で花粉が体に付着する（写真1）。サラシナショウマをルーペで観察すると穂を成すのは花弁ではなく多数の雄しべである。花弁は早落性のため見つけにくい。サラシナショウマは生育する標高の違いによって3種類の異なる遺伝型が存在し、それぞれの送粉者の昆虫も異なる。タリアセンの標高にあるサラシナショウマは芳しい香りがする。アケ

ボノソウは花の模様が夜明けの空「曙」に似ていることに由来する。アケボノソウの花は花弁ではなく花冠の裂片である。裂片にある緑色丸の蜜腺溝を観察した。蜂が回転をしながら蜜を吸うことで花粉が体について送粉する。

花と送粉者の昆虫との不思議な関係に感心する。この地球上に花と昆虫はどちらが先に出現したのだろうか、両者の密接な関係には長い歴史があることを紹介した（図2）。この壮大な歴史を思うと、この一瞬に出会えることはなんて素晴らしいことだろう。参加者の感想。「知っているつもりだった花の本来の姿を知る事ができて楽しかった。」「昆虫と花の関係、自然の素晴らしさですね。」「1億年以上前からの花と昆虫の相互関係に吃驚した。」改めて、このホットスポットの環境を保つことの大切さを共に実感し終了した。[伊藤良則]



多様な自然

軽井沢は日本を代表するサクラソウ自生地のひとつです。軽井沢のサクラソウは浅間山麓の広大な地域に自生しています。また、軽井沢のサクラソウは多様な遺伝子形式を持つことが分かっています。なぜ、軽井沢のサクラソウはこんなに多様なのでしょうか。軽井沢は浅間山の噴火活動に伴い、湿地と草原が形成され多様な植物を育んできました。この恵まれた環境こそが多様性の源になっていることは間違いのないでしょう。

調査の大切さ

2010年から軽井沢のサクラソウの調査を定期的に行っています。2015年には294箇所の自生地が観察されました。サクラソウ自生の状態の推移を把握することは私たちの軽井沢の自然の行方を

知ることであり、自然保全の対策を立てる重要な手がかりを与えてくれます。

皆さん、「サクラソウを調査することで軽井沢の素晴らしい自然を肌で感じて見ませんか。」私たちはこんなに恵まれた自然の中に生きているのだと実感できます。軽井沢のサクラソウはこれからも変化していきます。それを見守ることをできることは幸せであり、次世代への貴重な贈り物となります。2025年5月にサクラソウ全町調査をします。今回の調査ではデジタルツールを使用した調査も予定しています。可能な範囲で結構ですので、調査に協力して頂ける方は軽井沢サクラソウ会議事務局までご連絡ください。

連絡先/info@sakuraso.org



202411/1~4

文化展「100年後の軽井沢へ植物標本づくり」

軽井沢町の絶滅危惧植物標本を12種類、展示しました。

サクラソウ会議が行った一部保全の署名や請願もかなわず、馬取山田地区のほ場整備事業は、2024年秋工事開始されました。NPO法人生物多様性研究所あーすわーむの協力で、工事予定地から採集されたホトケドジョウ、オオコオイムシ、ツチガエルなどの希少な生き物の水槽展示を、文化展史上初めて行いました。 [伊藤恵子]



絶滅危惧種植物標本と希少水生小動物水槽展示

REPORT

クリスマスリース作り

2024 11/28

リース作り、とても楽しかったです。講師の伊賀さんに、途中、迷う飾り付けや付け方のアドバイス、仕上げを手伝って頂いたりして、なんとか完成する事が出来、感謝でいっぱいです。



庭や森から持ち寄った自然な材料での温かな作品

他の皆さんの作品もいろいろ個性が出ていて、見ていて綺麗で、とても素敵で、植物と同じく、みんな違ってみんないいなあ…の言葉が浮かびました。 [小清水聡美]

ホトケドジョウをどこに逃すか ～私の頭の中の3人の会議～

石塚 徹

(NPO法人 生物多様性研究所あーすわーむ)

きっかけ

10年あまり前、アサマフウロの草原が広く蕎麦畑になって乾燥化し、見る影もなくなって足が遠のいていた馬取山田地区。今度は全面をキャベツ畑にするということで、2024年、湿地にいるホトケドジョウの捕獲とお引越しを事業者(県)に頼まれました。「私は魚類学者ではないし、各地の保全の取り組みや法的なことに詳しいわけでもないから、責任は持てませんよ。開発に加担することになるわけだし、あまり私の名を出して『専門家がいいと言った』みたいには言わないで下さいね」とお願いし……。

ホトケドジョウとは

体長：6cm前後(普通のドジョウは15cmに達する)。ずんぐりして、上から見るとナマズのよ様な体型。環境省：絶滅危惧ⅠB類。長野県：絶滅危惧Ⅱ類(=全国水準よりは身近にいる)。



ホトケドジョウ

「絶滅危惧種=弱い魚」ではありません。水がきれいだからいる、という特別な魚ではなく、本流に流されては、また細流をみつけて遡上し繁殖する強い魚。川が暴れた名残の小川のようなところが本来のすみかで、多摩川や江戸川でも、そんなところに少なからずいます。

ただ、小川が人工護岸のU字溝になると水流が極端になり、泥や水草がなくなるので、いなくなります。そうして全国的に生息地が減ったのでしょう。

馬取のホトケドジョウ繁殖集団は、南軽井沢一体が大湿原だった頃の生き残りです。半世紀あまり前から止水に封じ込められて生き続けてきた点が、その希少性のポイントです。



沼での捕獲作業

捕獲

「ホトケドジョウは小川の魚。本当にいるの？」と半信半疑で調査開始。2年前のアセス調査で見られたのは、北側の草原内にあるという小さな沼ですが、まず南側の谷戸の奥、別荘地から沢が流れ込む湿地を探りました。6月にはいそうな雰囲気だった流れも、7月になると多くが干上がり、結果的に南側での捕獲はゼロでした。

8月、北側にある本丸の沼を事業者以案内してもらい、数人で本気捕り。2畳ほどもない水たまりですが、鉄分で濁った底までは1m近い深さがありました。前日に別の沼も見つけていたので、両方を探った結果、ホトケドジョウが8匹捕れました。

小一時間でほぼ捕れなくなりましたが、後日やってみるとまた捕れる。雨上がりに来てみると、草原全体に水脈が網の目のように広がり、流れているところも。そういうときに、魚は沼と沼を行き来しているのでは？沼が2つだけとはとても思えないので、事業者に再調査をお願いしたところ、やはり新たに2つ見つかりました。